

大学運動部活動における自治組織の運営と「人間的成長」に関する一考察

－ A 大学体育会サッカー部の実践的事例に着目して－

森本 涼太 (奈良教育大学)

1. 本研究の目的

大学運動部活動において暴力問題などの課題が山積する社会背景の中、本研究では、A 大学体育会サッカー部を対象として、組織の運営方法について分析し、大学運動部活動のあるべき運営の一端について考察することを目的とする。

2. 研究方法

A 大サッカー部は全国でも上位の成績を収めるチームであるが、そうした好成績を収めるようになったきっかけは組織の運営方法を変えたことにあるといわれている。そこで本論では A 大サッカー部を対象に以下の方法で調査を行った。

- 1) 対象者 A 大学体育会サッカー部員 242 名
- 2) 調査時期 平成 30 年 3 月～12 月
- 3) 分析方法 インタビュー、練習における参与観察、試合やミーティング映像の記録、アンケート調査を行う

3. 結果と考察

1) モットーとプロジェクト活動

A 大サッカー部には組織の方向性を確立する数多くのモットーが下記の表のように存在する。

哲学	サッカー部の活動を通して人と人との間を大切にし、お互いが精一杯生き…等
理念	サッカー部の活動を通して、自分も周りも輝くような…など
理想像	八面玲瓏にそびえ立つサッカー部 俯仰天地に恥じないサッカー部…など
行動の原則	時を守る、場を清める、礼を正す「凡事徹底」
内部規則	部員は常に「一意専心」を心掛けなければならない…等
部員心構え	ゼミ活動への積極的な参加や予習・復習の励行…等
目標	全員サッカーで日本一

A 大サッカー部ではこれらのモットーを具現化するために学生が主体となって 6 つのプロジェクトを行っている。その中には仲間の応援、地域の清掃、サッカー教室などが存在し、部活動の中でサッカー競技を行うことだけに特化するのではなく、仲間や

地域住民とのかかわりを生む活動を大切にしている。

2) プロジェクト活動に対する部内での浸透

先述したプロジェクトを行うことは「人と人との間を大切に」し、「全員サッカーで日本一」に近づくとこの考え方が部員間で共有されていることがインタビュー調査で明らかになった。アンケート調査では多くの部員がプロジェクトなどの取り組みとサッカー競技を別物として考えておらず、サッカー以外の場面でルールを守ることや自らが率先して行う活動は直接サッカーに通ずるものがあるとしていることが示唆された。このようにプロジェクトを代表とした自治組織は部員の自主的な活動であり、チームのモットーを形骸化させない活動であるということが考えられた。

3) 「社会人育成クラブ」

A 大サッカー部には「社会人育成クラブを目指す」と書かれたポスターの掲示がある。これに関するアンケートやインタビュー調査から、このモットーは社会の一員としてあるべき姿をめざすものであり、そのためにプロジェクトなどの自治組織が活かされていることが分かった。このように部活動において種目競技のみを行うのではなく、一人一人の自主的な組織運営の参加が競技成績の向上または人間的な成長につながるとしていることが明らかになった。

4. 結論

A 大サッカー部は「人と人との間を大切に」しながら、「全員サッカーで日本一」という目標に向けてプロジェクト活動を行っている。こうした組織の運営はサッカー競技という枠組みを超えて、学生が主体となって行われおり、「社会人育成クラブ」としての価値を高めていると結論付けた。

<参考文献>

藤本哲(2011)大学生部活動集団における社会ネットワーク中心性と組織構造集権化, 産業研究 / 高崎経済大学附属産業研究所編 1号 47 巻